

否定せず受け止める



高橋さんは介護員の成田さんを「アヤ」と呼んで慕っている（10月4日、石巻市の仁風園で）

いま 命をめぐる

仁風園 ⑤

その孫娘に会ったことはない。分かっているのはアヤという名だけ。漢字でどう書くかも知らなかった。半年ほど前のことだ。介護員の成田知恵さん39が夜勤明けの引き継ぎをしていると、「アヤ」と呼ぶ

声がある。高橋勇喜さん（91）が成田さんの顔を見て手招きしていた。

「アヤって誰」の一言をのみ込んで、話を聞いた。

「馬券が当たったので換金してきてくれ」という。無類の競馬好きで、スポーツ新聞やテレビ中継を見て予想を立てる。もちろん実際は馬券を買っていないし、当たった事実もないが、どうやら成田さんを実在の孫

と重ねているらしかった。

「アヤ」で換金できるの」と聞くと、大郷町にある場外馬券場までの道順をそれは懇切丁寧に教えてくれた。

以来、顔を合わせれば孫娘になりきって会話する。少し頑固なところがあって周囲を困らせても、「みんなに迷惑をかけちゃ駄目だよ」と成田さんが諭せば、アヤが言うなら仕方ないという顔で納得する。最近はお嬢様でアヤちゃんと呼ぶようになった。私、知恵さんですけど。まあいいか。

入所者が、わが家のように安心してここで生活できるのが成田さんの理想だ。

「勇喜さんは、私のことを家族だと思ってくらい受け入れてくれてる。私も同じ気持ちですよ、とお返ししたい」

*

施設職員を身近な人に置き換える例は、そう珍しくない。「お父さんは退院したの？」と尋ねられ、よくよく聞いたら隣近所の娘と

思われていた人もいる。

介護主任の三浦まゆみさん（49）は、今野あき子さん（90）の姪ということになっている。記念撮影しようとするれば「おめえも一緒に撮ってもらえ」と呼ばれる。三浦さんは快く応じる。

否定すれば負の感情が残る。だから気持ちを大事に受け止める。それは認知症の人との接し方のように、すべてのコミュニケーションにどこか通じるころがある。事実には照らして間違いを直すことが常に正しいと、いつのまにか思い込まされている自分に気づく。

入所した3年前に比べれば今野さんの認知症は進んだ。「記憶に残らなくても、たわいのない会話でわははと笑うことが生きる力になる。楽しい表情や安心した顔が見られればそれで十分」と、三浦さんは言うのだった。（シリーズ「仁風園」おわり。高倉正樹が担当しました）



今野さんは甘えたように三浦主任の腕をとり、頬を寄せた（10月4日）